

— 経 歴 —

- 平成8年
富山市立堀川中学校卒業
- 平成11年
富山県立富山南高等学校卒業
- 平成15年
順天堂大学 卒業
(スポーツ健康科学部
心身障害者心理学専攻)
- 平成15年
富山テレビ放送株式会社入社
(報道制作局 報道部 勤務)
- 平成22年8月末退社
- 平成23年4月
富山県議会議員初当選

役 職

経営企画委員会副委員長
新幹線・総合交通対策特別委員会
文教・公安部会副部長



おくのえいこ
県議会だより

Vol.1

平成23年7月発行

ひめごと

大暑の候、皆様方におかれましては、益々ご清栄のことと存じます。

議会では、この度、知事政策局をはじめ、県政の重要施策全般に関わる経営企画委員会の副委員長を拝命いたしました。また、新幹線・総合交通対策特別委員会、文教・公安部会に所属し、勉強会や視察を通して、日々学びを深めております。

さて、3月に発生いたしました東日本大震災から4ヶ月以上が経過しましたが、復興への道程に明るい兆しは未だ見えず、被災地では今もなお多くの方々が不自由な生活を余儀なくされています。先般の6月議会でも、この未曾有の大災害を教訓にと、津波を想定した災害対策や原発をはじめとするエネルギー政策について、多くの質問がなされました。

いま日本も富山も大きな転換期を迎えています。しっかりと足元を見つめ直し、次の世代に何を残していくべきなのか、私たち一人ひとりが考えるときが来ています。

富山県議会議員

奥野 侖子

『6月議会一般質問に立ちました』

県教育振興基本計画と目指すべき教育の取り組みについて

① 生きる力の育成を重要視するのであれば、子どもたちには基本的な人間教育や情操教育こそが、より必要と考えるが、どのように取り組んでいくのか、問う。

(策定予定の県教育振興基本計画は、学力向上のための方針が中心とならないようにすべき)

知事答弁

「有識者の提言をもとに、ふるさと教育、探究科学科の設置、とやま科学オリンピックなど、富山ならではの取り組みを進めている。ふるさとへの愛着や誇り、家族や地域の絆を大切にしながら、命や生きるということを大切に思っ、心豊かに自らを高めるようになってくれることに期待している。社会全体で、知・徳・体やたくましく生きる力の育成に取り組むたい」



② 答えがひとつだけではない、割り切れない分野が、人間形成に大きな影響を及ぼすのであり、何をどのように教えるかというところにまで配慮してこそ、目指すべき教育の形と考えるが、どうか、問う。

(国語や歴史教育、道徳といった教科を通して、多角的に物事を捉える必要性も教えないければならない)

教育長答弁

「県教育委員会では、幼・小・中学校の教育指導の重点を作成し、社会科では、社会的現象を多面的、多角的に考察する場となるよう、指導を工夫することなどを盛り込み、その主旨の周知を図っている。指導主事の学校訪問を含め、適切な指導が、どの学校においても実施されるよう、指導・助言に努めている。今後も子どもたちの多面的、論理的思考やよりよく問題を解決する能力、発信する力が高まるよう、指導方法の改善・工夫に努めていきたい」

クローズアップ

県教育振興基本計画・・・富山県が今年度中の策定を目指し、6月議会後に策定委員会を立ち上げ、学力向上と生きる力の育成の両立を目指す。

高等特別支援学校と障害者の自立支援について

① 一般企業への就職を希望する軽度知的障害の生徒について、開校予定の高等特別支援学校のカリキュラムの中で、やりたい仕事に就けるのかどうかといった能力以外の課題にどのように対応するのか、問う。

(企業への就職には、障害の程度だけでなく、健常者と同じようにマッチングの問題もあるように感じる)

教育長答弁

「生徒の希望や能力に応じた職業選択の助言・援助を行うため、職場見学、就業体験、企業関係者などによる講話を通して、就労の魅力や自己の適正の理解を図るほか、企業に理解と支援を求め、新たな就職先の開拓を行う。また、卒業した卒業生のフォローアップや就職できない卒業生を就労支援する仕組みも設け、きめ細かく取り組みたい」

② 現行の県工賃向上支援計画は、今年が最終年度であるが、今後の計画はどのようなものとなるのか、現行計画の成果と併せて問う。

厚生部長答弁

「平成22年度の工賃月額額は、昨今の厳しい経済状況の影響を受けて、1万2575円と、対前年比5.4%増に留まった。自主製品の製造に取り組む事業所では、50%増加したところもあり、これまでの成果が一定程度は表れていると感じている。24年度以降の新しい計画は、国の基本的な指針がまだ示されていないことから、現段階では具体的に示すことはできないが、件としては、経営コンサルタントによる現計画における各種取り組みの検証、課題の把握、工賃向上の模範的事例の分析などを行い、今後の取り組みの方向性について検討したい」

クローズアップ

高等特別支援学校・・・高校再編により、県立高校として使用しなくなる大沢野工業高校と二上工業高校の校舎の一部を活用し、知的障害特別支援学校高等部を独立させるもの。企業への就職を目指し、知識、技能、態度などを習得させることを目指す。平成26年度以降の開校予定。

県工賃向上計画

・・・障害者自立支援法の施行を機に、授産施設等で働く障害者の工賃(賃金)水準を引き上げるための支援強化の取り組み。平成19年度から23年度までの5カ年で、一人当たり月平均1万2000円の工賃を倍額にまで増加させる見通しであった。

山岳警備隊について

① 山岳警備隊は、特殊な救助活動をする専門部隊として山岳警備に専念させ、日々の訓練をも充実させた上で活動させるべきと思うが、どうか、問う。

〔現在、隊員28人のうち、専従隊員は6人であり、それ以外の隊員は警察署で地域の安全を守りつつ山岳警備に従事する兼務隊員である〕

知事答弁

「全国で唯一、専従隊員を有しているのが、富山県警察である。国、地方通じて、行政改革、財政再建が重要課題になっている中、平成21年に専従隊員を4人から6人に増員している。兼務といっても専従隊員と一緒に、年間相当日数を訓練に当てている。事故があったのは確かなので、安全面では、これまで以上に配慮して、これまでの高い評価を維持してもらおうとともに、県としても環境整備に努力したい」

② 山岳事故防止対策に加え、殉職事故を二度と起こさないために、どのような対策をとるのか、問う。

警察本部長答弁

「中高年登山者、若者を対象に、山岳警備隊員が山小屋へ出向く出前講座をはじめ、登山中の人への一言アドバイスや広報ポスターで、遭難防止を呼びかけているほか、登山者講習会への山岳警備隊員の派遣も行っている。長野、岐阜とも連携して、一件でも事故を少なくしていきたい。」

殉職事故の再発防止については、事故防止検討会を順次開催し、検討しているところだが、より安全性を高める訓練方法、サポート体制について、今後は民間の山岳関係者からも意見を聞き、具体的な再発防止策を早期に構築していきたいと考えている」

クローズアップ

山岳警備隊殉職事故

平成23年2月、山岳救助訓練中に雪崩に巻き込まれ、山岳警備隊と入善署の兼務隊員であった丸山分隊長が殉職。4月、天候の回復を待って、遺体が収容された。富山県警察山岳警備隊発足以来3人が殉職している。

スポーツ振興について

① 県野球協議会では、小・中・高校までの一貫指導体制の確立が焦点とのことだが、今後の部活動への影響や共存について、どのように考えているのか、問う。

〔競技力向上のためには一貫指導が効果的と考えるが、その一方で仲間との連帯感を高め、人間関係を構築する教育の場でもある部活動の衰退に拍車をかけるのではないかと〕

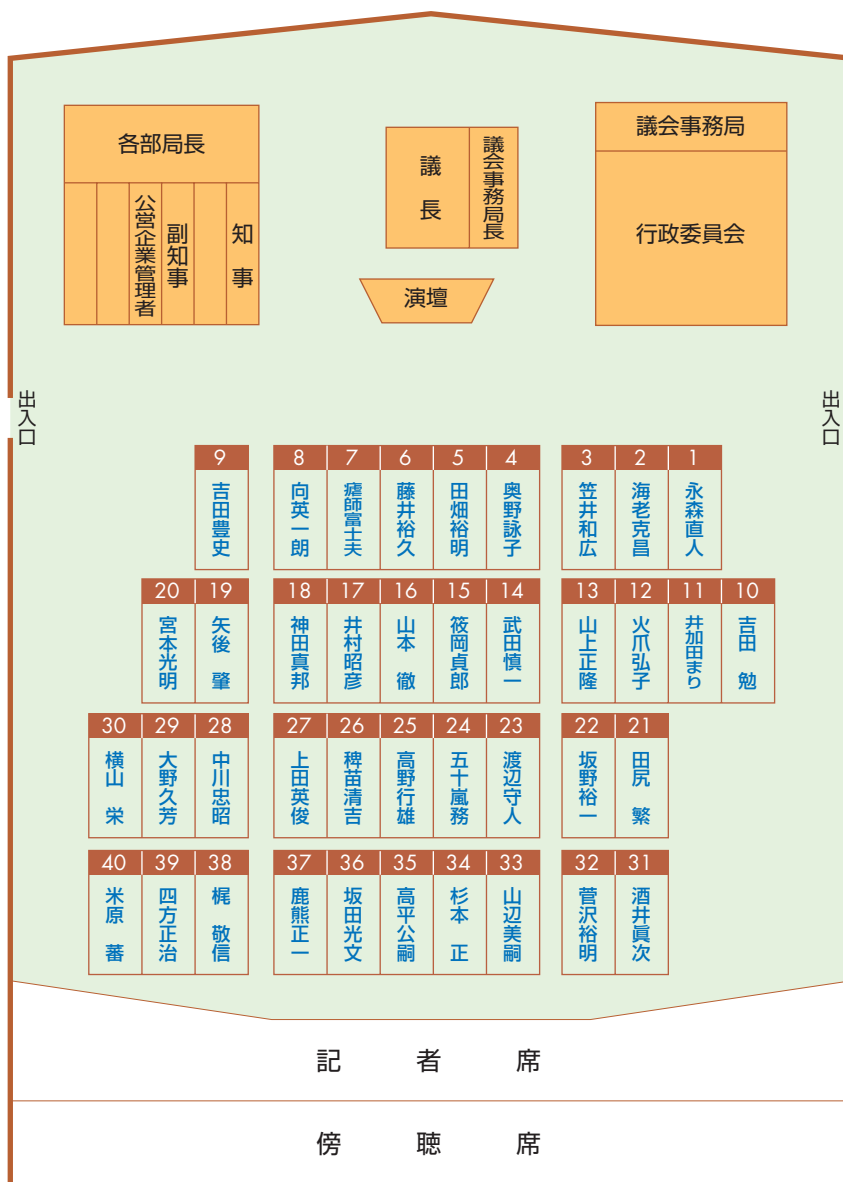
教育長答弁

「野球協議会が目指す一貫競技指導体制は、部活動の教育的効果も活かしながら、小学校では野球を好きになること、中学校では正しい基礎、基本を身に付けること、高校では専門的な技能や体力を高めることといったように、発達段階に応じた正しい指導方法を、すべての指導者が共通認識して強化に努めるもの。野球協議会の取り組みが、刺戟となり、部活動の競技力が向上することはもとより、仲間との連帯感が高まり、豊かで好ましい人間関係が構築できるよう、県としても支援したい」

など、4つの分野で14問を問う、知事や各担当部長に答弁をいただきました。

6月議会一般質問の詳しい様子は、富山県議会のホームページをご覧ください。
<http://www.pref.toyama.jp/section/0100/>





本会議場配席図

平成23年5月2日現在

トクホト

こぼれ話

6月議会も終わり、ほっと一息。この間、たくさん質問いただいたのが、議場の椅子の座り心地ってどうなの？というもの。確かに一種独特の雰囲気がある空間であるし、なかなか立ち入る機会もないので、興味湧くところではあると思う。

しかしながら、この椅子の座り心地というのは、実はすごく悪い(苦笑)クッションは・・・なかなかよい。ただし、机と椅子が遠すぎる。どちらも固定されているため、調節できず、体に合わないこと、この上なし。おくのがちっちゃすぎるといっても、もちろん大きな原因のひとつではあるが、机、椅子の高さ、距離とも無理のある体勢で一日議会となると、終わるころには背中も腰もギシギシ。そういえば、小学生のころ、身長ごとに机と椅子を選ばされたっけ。あれって、意外と大切なことだったのね。凝り・・・最近の悩みであります。

*議会のちょっとしたエピソードを随時紹介していきます

連絡先

富山県議会自民党控室
〒930-8501 富山市新総曲輪1-7
TEL 076(431)5244 FAX 076(441)8421
E-mail: okuno.eiko@lime.plala.or.jp